



和田先生のお取次で報恩講ご満座を迎えることができました

慧光

金光寺寺報
第175号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

十二の光放ちては あまたの国を照らします

一月の法語は「和訳正信偈」の第四首前半の二句です。「十二のひかり」とは、「正信偈」に阿弥陀さまのはたらきが十二の光で示され、その大いなるはたらきを称讃するとともに、すべての生きとし生けるものがこの光に照らされる……と、阿弥陀さまのおはたらきに出遇っている喜びが詠われます。

「無量光」とは、量ることのできない光で、たて縦に(=時間軸で過去・現在・未来にわたる)三世を貫き照らすことに限極がないといわれます。「無辺光」とは、際限のない光で、横に(=空間的に)十方にわたって照らすことに辺さい際がないといわれます。次に「無礙光」とは、何ものにもさえぎられることのない光で、三毒ぼんのうの煩惱(自己中心の心から起こるむさぼり・いかり・愚かさの毒のような煩惱)も障碍しょうがい(障り、妨げ)となることがないといわれ、この「無礙」

なるはたらきがさらに区分されて、以下の九種の光があげられるといわれます。

それら九種とは、対比しうるものが全くない「無対なる光」、最高の輝きをもつ「炎王なる光」、凡夫の欲望・むさぼりを除く「清浄なる光」、凡夫のいかりを除きよろこびを与える「歡喜の光」、凡夫のまどい・愚かさを除き智慧ちを与える「智慧の光」、常にたえず凡夫の心を照らす「不断の光」、思いはかることのできない、凡夫をそのまま往生せしめる「難思なる光」、説き尽くすことができず言葉も及ばない「無称なる光」、太陽や月など世間の光に超えすぐれた「超日月の光」——これらを含めて十二の光で、阿弥陀さまの威徳を讃嘆されているわけです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

2016(平成28)年

1月
18日(月) 終日
29日(金) 終日

2月
20日(土) 終日

3月
23日(水) ~ 24日(木)

昨年12月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

- 2015年12月10日寂満90歳
丁子興 杵良 幸様
- 2015年12月14日寂満91歳
延岡市 山口 宮子様
- 2015年12月17日寂満83歳
水流 飯干 高昭様
- 2015年12月23日寂満74歳
原尾野 椎葉 春子様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
1月8日現在 アクセス数 76,799人

暖かいお正月でした。昨年のお正月は雪で、本堂向拝の回りに雪が積もり、掃いても掃いても積もるので掃くのをあきらめ、初詣の方々に迷惑をかけたことを思い出すと、今年には天候に恵まれて良かったなと思つたことでした。私たちがとつては暖冬はありがたいことですが、スキー場にとつて、あるいは地球規模で考えると地球温暖化傾向というものは深刻な問題です。改めて、当り前がいすね。当り前といえ、先月号本欄で私の体調不良について触れたら、いろいろの方からお気遣いのお声をかけていただきました。恐縮するともにお礼を申し上げます。改めてお伝えしますが、一応、病院で診察を受けて「異常なし」の診断を受けたので、節制を考えております。時々、アルコールが過ぎると胸に違和感を感じることがあります。そので、節制を考えております。もし、お齋の席でタガが外れていたりと感じられたら、少し、控えてください。本年もどうぞよろしく！(住職 松井卓郎)

仏教用語豆辞典

他生の縁

「袖振り合つてもタシヨウウの縁」の部分に漢字で書け、という問題が出ました。その解答には「多少」が圧倒的に多かったそうです。

正解は「他生」です。辞書には「多生」というのもありますから、これも正解にしましょう。「他生」は、現在の生以外の生を意味しますから、前世か後世のことですし、「多生」は多くの生をいいます。人と人との出会いは不思議なものであり、敵かなものでも道ばたで人とすれ違つたとき、袖がちよつと触れ合うほどのささいなことでも、深い深い縁があるのだ。だからこそ、出会いのご縁を大切にしようというのです。この諺は、この辺りを、しみ

じみとした、情味ある表現で示しています。この「他生の縁」は謡曲や狂言にも登場しますし、「一樹の影一河の流れも他生の縁」という諺もあります。人間関係が希薄になつた現代とはいえ、「多少の縁」では、ちよつと淋しすぎると思いませんか。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇PART-1から)

住職ひとりごと

「門主」あいさつ

二〇一六（平成二十八）年
を命の縁あって迎えることが
できました。ありがたいこと
です。

昨年しんねんの当山とうざん報恩講ほうおんこうには十五
日じつ、十六日じゅうろくにんの二日間にににちかん三座さんざに多
くのご参詣さんぎをたまわり、無事
にご満座まんざを迎えることができ
ました。ありがとうございます
でした。

ご講師こうし和田新吾先生わにしんごせいせいのあり
がたいお取次とりだいぎを聴聞ちえんさせて
いただくことができましたこ
と、宗祖親鸞聖人そうそしんねんせいじんの尊たうといお導
きであつたと思おもうことです。

本年しんねん一月号いちげつごうにご門主かどぬしの年頭
のごあいさつごあいさつが掲載けいぎゃくされてお
りましたので、転載てんざいさせてい
たきます。ご一読いちとくください。

本年しんねんも阿彌陀さまのご本願
に支えられ、お慈悲おじせいに遇あわ
せていただく一年いちねんでありますよ
うにと念ねんずるばかりです。

年頭の辞

門主 大谷光淳



新しい年のはじめにあたり、「ご挨拶申し上げます。すでにご案内の通り、本年十月一日より来年五月までの十期八十日間じゅうしきはちじゅうにちかんにわたり伝灯奉告法要でんとうほうこうほうようをおつとめいたします。本願寺の御影堂おんかげだうにおいて、宗祖親鸞聖人の御前おんまへに、第二十五代門主として法統を継承したことを報告いたします。親鸞聖人が説かれて以来、およそ八百年の間、浄土真宗のみ教えは、日本をはじめとして世界各地で説かれ、受け継がれてきました。このたびの法要では、ご参拝の皆さまと共にそのことをよるこび、次の世代の方へと伝えていく決意を新たにいたしましたと思ひます。

浄土真宗のみ教えを聞かせていただく私たちは、阿彌陀さまのはたらきの中で、自分自身の眞実の姿に気付かされます。それは、物事を自分にとって都合がいいように考えたり、自分自身のことを正当化する、自己中心的な姿であります。しかし、社会において、皆が自分の正当性を主張したのでは、対立しか生みません。浄土真宗のみ教えを聞き、阿彌陀さまのはたらきの中で生かされている私たちは、困難なことはありませんが、少しでも自己中心的なあり方から離れ、他の人々と共に幸せに生きていけるような社会を築くことが大切です。

浄土真宗のみ教えを依りどころとして、日々の暮らしを送るとともに、ご縁ある方へもみ教えを依りどころとした生き方を伝えてまいります。伝灯奉告法要には、ご縁ある方と共にご参拝くださいますことを願っております。

光寿無量

ご法義ご相続の二〇一六年を
お迎へのこと大慶に存じます
ますますのお念仏相続の
一年でありますよう
お念じ申し上げます

本年もどうぞ

よろしくお願い申し上げます

二〇一六年 一月

金光寺役員・総代一同
金光寺寺内一同

法語の世界

〈原文〉

よきことをしたるがわるきことあり、わるきことをしたるがよきことあり。よきことをしても、われは法義につきてよきことをしたると思ひ、われといふことあればわるきなり。あしきことをしても、心中をひるがへし本願に帰すれば、わるきことをしたるがよき道理になるよし仰せられ候ふ。しかれば、蓮如上人は、まゐらせ心がわるきと仰せらるると云々。

（蓮如上人御一代記聞書 百八十九）

〈現代語訳〉

「善いことをしてもそれが悪い場合があり、悪いことをしてもそれが善い場合がある。善いことをしても、自分じぶんは法義のために善いことをしたのだと思ひ、自分じぶんこそがという我執がしやくの心があるなら、それは悪いのである。悪いことをしても、その心をあらためて、弥陀の本願を信じれば、悪いことをしたのが、善いことになるのである」というお示しがあります。そういっわけ、蓮如上人は、「善いことをしてその功徳を仏に差し上げようとすると自力の心が悪い」と仰せになったのです。

お通夜には平服で

終時間夜すれめる講寿。聞も報がた質通で。ふ改なる受昭たをうと。和葬つごおのと。折がにを崎し報伺とは。講で行くも（火還らばう）に。すが職を山ま計には。私恩講で私（）にか昔思？折がにを崎し報伺とは。講で行くも要宅方「と」すか？折がにを崎し報伺とは。講で行くも法自る。た。す。私設担ただ方えく。当山報恩講でお通夜には平服で。骨が、あ。た。した。修式。た。あ。り。あ。く。の。通。夜。は。平。服。で。還。が。あ。た。し。た。つ。き。の。研。修。に。あ。り。あ。く。の。通。夜。は。平。服。で。六。日。遺。の。ま。な。が。つ。つ。き。の。研。修。に。あ。り。あ。く。の。通。夜。は。平。服。で。一。月。六。日。遺。の。ま。な。が。つ。つ。き。の。研。修。に。あ。り。あ。く。の。通。夜。は。平。服。で。一。月。六。日。遺。の。ま。な。が。つ。つ。き。の。研。修。に。あ。り。あ。く。の。通。夜。は。平。服。で。